

位置図



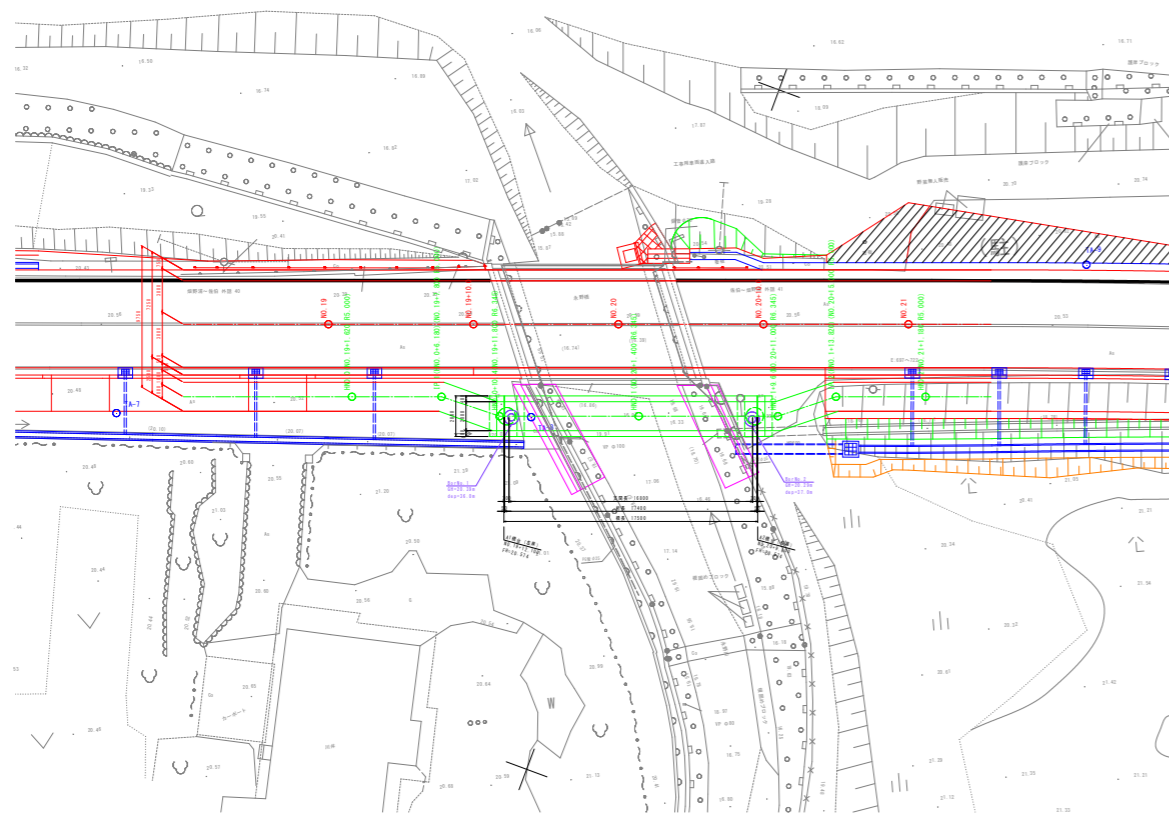
現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 単独歩道橋
- 起点側:家屋あり(塀が近接)
- 地元協議により道路敷内での施工(塀は補償で撤去、施工後復旧)
- 基礎及び下部工の施工は、非出水期に実施
- 矢板施工(型枠設置幅が確保できないため、合板設置で対応)
- 交通規制条件:国道388号は片側交互通行(全面通行止め不可)
- その他支障物件:既設本橋、重圧管(φ600)、電柱(移設予定)

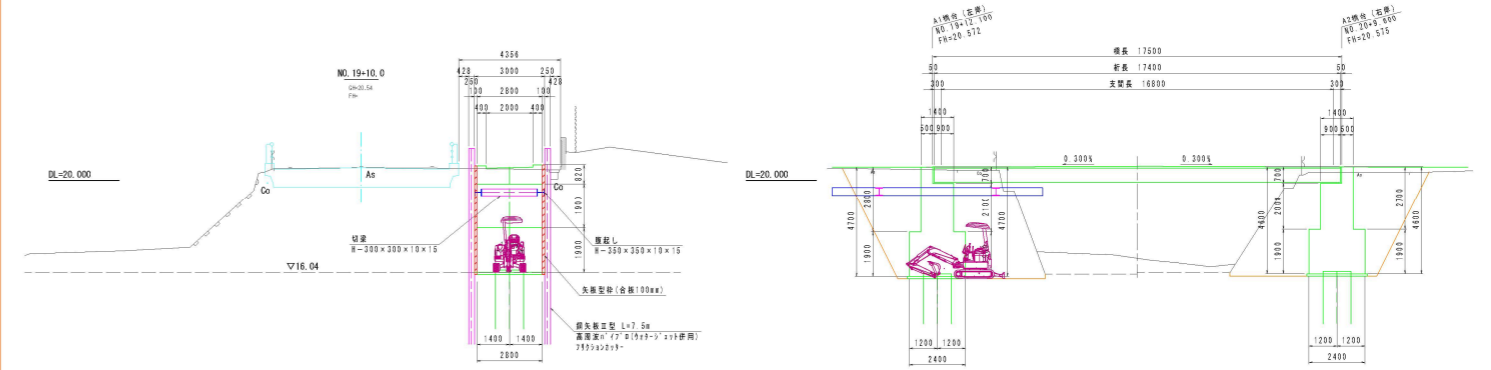
設計条件

- 道路区分:第3種第3級 設計速度:V=50km/h
- 計画歩道幅員:W=2.8m(有効幅員 2.0m)
- 施工ヤード確保のため、掛樋を設置し河川(永野川)内に盛土する(非出水期)
- 仮締切り:大型土のう(予定)

平面図



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

- 鋼矢板打込みは高周波バ イブ ロ(ウォータージ ット併用)となっているが、現地は礫(φ100)が確認され近傍施工箇所でも鋼矢板が打込めない事例があった。
 - 硬質地盤クリア工法の使用を検討する。矢板突出長はつかみシロを考慮し 50cm とする。
- 橋台前面の締切りが大型土のうとなっているが、瀬替えをすると両橋台の同時施工が難しい。
 - 矢板を矩形とし、橋台施工時も施工ヤード用盛土を残置する。
 - また、施工手順は、最初に既設護岸の撤去を行う。
- 土留め内の床掘がバックホウ使用となっているが、施工が困難と思われる。
 - クラムシェル使用を検討する。
- 河川内盛土は既設本橋桁下に大型土のう設置となっているが、施工が困難であると思われる。
 - 必要施工ヤードを詳細に検討し桁下作業が最小限となるようにする。
- 矢板型枠は合板使用となっているが、撤去が困難である。
 - コンクリート製残存型枠を検討する。
- 矢板施工の場合、腹起し等に鉄筋が干渉することが予想される。
 - 干渉する箇所は機械継手を検討する。

○確認事項

- 支障物件(電柱)の移設について
 - 終点側の電柱は、国道 388 号左側(木立川側)への移設が望ましいと考えている。
- 隣接家屋への対応について
 - 塀は施工前に補償で撤去し、施工後復旧する予定である。家屋については、事前調査を予定している。
- 施工時の交通規制について
 - 施工時はバックホウの旋回等があるため、一時的な片側交互通行規制を行う予定である。
- 施工ヤードについて
 - 非出水期に河川内に盛土及び大型土のう設置により、施工ヤードを確保する。
- 仮設工法について
 - 矢板施工とし、矢板型枠を予定している。また、矢板引抜き時の周辺施設への影響を考慮し、フリクションカッターの適用を予定している。